

織田信長公居館跡 発掘調査現地公開



2008年10月11日（土）

13：00～15：00

岐阜公園は織田信長が館を構えた地として知られています。1567年、信長は美濃を治めていた齋藤道三の孫、龍興^{たつおき}を追放し、みずからの本拠をこの地に移したのです。それから2年後の永禄12（1569）年、岐阜を訪れたポルトガルの宣教師ルイス・フロイスは、その記録の中で信長の館を「宮殿」と称し、華麗な内部の様子を紹介しています。

これまでに大きく3回にわたる調査を実施していますが、平成19年6月から遺跡の全体像を解明するため第4次調査を開始しました。昨年庭園の可能性のある石敷きや建物の礎石が見つかるなど大きな成果があったため、今年度は22箇所に調査区を増やして実施しています。

今後、国の史跡指定を目指して、継続して調査を行っていきます。



A地区—平坦地の範囲や構造の解明が進み、庭園の可能性が高まる。

A地区は現在の三重塔下の平坦地です。昨年、庭園の州浜の可能性のある石敷きを検出したことから、今年は範囲を広げて池の広がりや建物の確認、敷地範囲の特定に主眼をおいて調査を行いました。

主な検出遺構：

石敷き遺構、巨石、池状の落ち込み、石垣
巨石の据付痕？

- ・検出した遺構は池に関係すると考えられます。
- ・北側はもともと自然の山だった部分が明治時代以降に削られ平らになった様子。山が庭園の背景として利用されていた可能性もあります。巨大な石は庭園の景石とも考えられます。
- ・中央部には池があったようで、それが近代に埋め立てられています。埋土には壁土が多く含まれていました。
- ・建物は今回の調査範囲外（南部）に想定されます。
- ・南端、西端部で石垣の痕跡を確認、敷地の範囲がおおよそ判明しました。

A地区は北側に庭園、南側に建物があったと思われる。



左上：岩盤まで続く石敷き
川原石とチャートの石敷きが東側の岩盤まで延びています。

上：池状の落ち込み（深さ60cm、南北幅6.5m）
底には粘質の土が張られています。埋土からは近代の焼き物が見つかります。

下：巨石（東西長さ3m以上）
巨石はもともと立てられていた可能性があります。



B地区—上段で石垣と水路に囲まれた区画を確認。建物が存在か？

B地区は^{けやきだに}槻谷と呼ばれる谷にある平坦地です。昨年下段（B1）では焼けた壁土の層と礎石を確認し、建物があることが判明しましたが、上段（B2）の性格は不明でした。今年はその内容確認のために調査を行いました。

主な検出遺構：石垣、石組み溝

- ・敷地の東側、南側で石垣を、西側で川原石を詰めた石組みの溝を確認しました。
- ・南側の石垣には裏込めに川原石が多くみられますが、山側の排水を意識した構造と考えられます。
- ・石垣と溝に囲まれた部分に建物跡がある可能性が高いといえます。
- ・下段（B1）では昨年、礎石と壁土を確認しており蔵か茶室等の建物を推定しましたが、上段（B2）と合わせて居館に関連する建物が存在したと考えられるため、改めてその性格を再検討する必要があります。



B地区には居館に関する施設があった可能性が高いと考えられます。



上：東側石垣（残存高 80 cm、検出長 8 m）
崩れていますが、本来は 4, 5 段分あったようです。
東側の土留めの役割を果たしていた石垣です。

右上：南側石垣（残存高 90 cm、検出長 5 m）
東の方が高くなっており、裏込めには川原石が多く使われています。排水の意図が強うかがわれます。

下：石組み溝（幅 40 cm、検出長 11.5 m）
溝の中に川原石が多量に詰められた建物の雨落ち溝のような構造です。そばに礎石が 2 基あります。



C地区—巨石列と岩盤に囲まれた空間。礎石は確認できず。

C地区は現在の明治大帝像のある平坦地です。居館の中心部と考えられたことから、今年度は遺構の残りがよいと考えられる山際を中心に建物跡等の確認に主眼を置いて調査を行いました。

主な検出遺構：巨石列、石敷き遺構

- ・明治大帝像の裏側で、巨大な石列を確認、石材は火を受け変色しています。
- ・B地区との段差部分に存在するこの巨石列は周囲の岩盤と合わせて視覚的な効果を狙っていると考えられます。
- ・石敷き遺構は岩盤前面の化粧石として敷かれた可能性があります。
- ・C地区の巨石前では焼けた壁土が出土しているが、この場で焼けたものではなくその上のB地区下段（B1）から転落したものと考えられます。
- ・C地区では大規模な建物の痕跡は確認できませんでした。



C地区は巨石と岩盤を「見せる」場所であったと考えられます。高層建築物の痕跡はありませんが建物が存在していた可能性はあります。



上：巨石列

以前から露出していたもので、右側は高さ 2.35mと居館でもっとも大きな巨石です。火災で変色していることが分かりました。

右上：明治大帝像裏の巨石列

明治大帝像の裏にも巨石列が存在することが分かりました。赤く変色した巨石の前面からは焼けて硬くなった壁土が見つっています。

下：石敷き遺構

小ぶりの川原石を敷き詰めたもので、岩盤前面の化粧のために敷かれたと考えられます。



出土した遺物

出土量は全体的に少ないですが、中国産の染付けや国産の灰釉陶器、天目茶碗、かわらけなどが見つかりました。中には中国南部で焼かれたかなんさんさい華南三彩と呼ばれる貴重なものもあります。

C地区では焼けた建物の壁土が見つかりましたが、おそらくその上段のB1区から転落したと考えられます。昨年B1で出土したもの比べて硬く焼き締まっているのが特徴です。

瓦は今回2点見つかりました。瓦はこれまでの調査では天守閣周辺と門の推定地など限られた場所でしか見つかりません。信長公より後の時期と考えられます。



華南三彩 盤 (A地区)



焼けた壁土 (C地区)



軒平瓦 (C地区)

織田信長公居館の解明に向けて

これまでの発掘調査成果から、おぼろげながらも居館の全体像が見えてきました。試案の段階ですが、今後更に居館の構造を明らかにすべく調査を行っていきます。

発掘成果とフロイスの記述から推定される 岐阜公園・織田信長公居館の構造案



- ④ 3, 4階「町の全体が見える」
3階「廊下で通じる茶の座敷」
2階「奥方・侍女の部屋」・
「大部屋」
居館の2, 3, 4階部分
- ③ 「15から20の座敷」
「5~6の庭」
居館の1階部分
- ② 「長い階段」
「広場」
「入口に劇場風の建物」
「石垣(裁断されない石の壁)」
「近くの門」
- ① 「600人以上が外に残された」
(信長公への陳情の場所か)

「アルカラ版イエスズ会士書簡集」(岐阜市歴史博物館蔵)より

彼はこれら八人ないし十人のみとともに新しい宮殿に入ったのであるが、600人以上の貴人は外に残された。・・・

近くにある門を歩いてすぐに、私は後に記述するためにこの宮殿のようすを記憶しようとしたが、・・・宮殿の外側には、石灰を使わず、(面積が)広い上に(見事に)完成した石垣があるが、・・・まもなく広場(広い場所?)があり、それはゴアのサバヨよりも大きく1倍半ある。入り口には上演や公の祝祭に使う大きな劇場風の部分(部屋?)がある。・・・

長い石段を上るとゴアのサバヨのそれよりも大きな部屋に入る。この部屋の最初の通路(廊下)には見晴らし台と縁側があつて、町の側が見える。・・・

内部の部屋や大広間はクレタの迷宮であり、すべてがきわめて巧妙に、思いのままに作られていた。すなわち、もう何もないと思われるところにイヤシャキ(座敷)が現れ、これに続いてある定まった目的のための別の部屋が次々と現れた。広間の最初の廊下は15か20の座敷へと至るのだが、・・・縁の外側には5～6の美しい庭があるが、すべてがきわめて丁寧で新しく、何か雪のように白いもので作られていて、小さな空間をなしている。・・・

2階には大部屋と奥方の部屋があり、その侍女の部屋があるが、階下よりずっと優れている・・・3階は山側へと、通路で同じ高さでつながっており、チャと称する粉末でできたものを飲む立派で美しい部屋、すなわちチャの座敷(茶室)がある。これらは非常に落ち着いて騒音は全くなく、その完璧と調和は、私が見てきたものすべてに関して、疑いもなくこれを超えるものは決してないのである。3階と4階の見晴台と縁からは街の全体が見える・・・

第1回 信長学フォーラム ―信長公の虚像と実像―

平成20年11月15日(土)、16日(日)開催

特別講演『私の取材ノート～「その時歴史が動いた」の現場から～』松平定知氏
基調講演『信長の人物像をめぐって』三鬼清一郎氏 ほか

詳しくはブログで



発掘情報はブログで公開中!

<http://nobunaga-kyokan.jp>

問合せ先：岐阜市教育委員会 社会教育課
058-265-4141 (内線6356)